

2015 FORMULA 4 CHAMPIONSHIP Paddock NEWS

国内唯一、開発競争のあるフォーミュラカテゴリーF4の魅力 **Vol.2**



1 F4頂点を独占中。牧野の連勝はいつまで続くのか？ 太田の成長にも注目が集まる。2 アルミクラスの表彰では久保、塚田、高橋が登壇した。3 ここ数年スポット参戦が続く塚田も奮闘、総合5位に入った。4 山本はウィリアムスカラーのWEST956で参戦。これもF4の楽しみ方。5 S-FJを卒業してきた今井は3位表彰台を獲得。6 S耐参戦など経験豊富な久保も若手には手ごわい存在。

東日本シリーズに続いて、西日本シリーズは鈴鹿サーキット東コースから幕を開けた。東日本シリーズの開幕2連勝で、大いに話題を集めた牧野任祐は（この西日本開幕後の東日本第3、4戦も制して連勝を4とした）、当初より主戦場は西日本シリーズと定めているため、もちろん参戦。「17歳の巨人」とライバルたちがどう渡り合うのか注目された。

さて開幕戦のエントリーだが、東日本シリーズとは対照的にカーボンモノコックを使用するCクラスから出場したのは、昨年のスーパーFJ富士王者の今井龍太のみ。一方で今年からA1、A2にクラス分けされたアルミクラスは東日本シリーズに対してA1が4台、A2にも2台のエントリーを集め、それぞれカーボンモノコック勢と対等に戦い、まだまだ埋もれている旧車の可能性を示したとも言える1戦だった。とくに4台参戦したミストKK-ZSは、セッティングの熟成などでさらに戦闘力を上げてきた。

予選で最初に50秒の壁を破ったのは、昨年の日本一決定戦でF4デビューを遂げていた太田達也だ。その日本一決定戦はリタイアには終わったものの、ファイナルを終盤まで2番手で走行し、13年のスーパーFJ富士チャンピオンはF4にも適性ありと見られていたが、あらためて実証することにもなった。その太田に追従して50秒台に入っていたのは、かつて片寄勝正がドライブしていたミストKK-Aにスイッチしていた久保宣夫。コンスタントにタイムを刻んでいたこともあり、間もなく太田をも逆転するかに思われたのだが……。勢い余って久保はクラッシュ。幸いにもダメージはそれほど

WEST SERIES ROUND 1

●5月10日 ●鈴鹿サーキット東コース ●晴れ/ドライ

Pos	No	Class	Driver	Machine	Type	Time/Gap
1	11	A1	牧野任祐	DOODIE・制動屋・ルーニー・MYST JSS	KK-ZS	18'58"154
2	12	A1	太田達也	佐藤製作所ミストKK-ZS東名制動屋	KK-ZS	+18"170
3	3	C	今井龍太	B-MAX・PARABOLE-RK01	RK01	+34"625
4	77	A1	久保宣夫	オートセレクトジャパン☆MYST・制動屋	KK-ZS	+42"497
5	44	A2	塚田光彦	東海電装WESTsprint関口056	WEST056	+43"258
6	35	A1	高橋忠克	高宮商事ミストKK-ZS	KK-ZS	-1Lap
7	5	A2	山本 寛	ALPHATECHNOイーグルF4	WEST956	-3Laps



大きくはなかった。この赤旗が出されたことで誰より困惑していたのは牧野ではなからうか。というのも、まだアタックに入る前だったからだ。タイトなタイムスケジュールのなか、これで計測終了という可能性も充分にあった。幸いにしてセッションは再開され、自分の流れをつかんで臨んだのではないだろうか。牧野がそれだけの実力と太い神経の持ち主であることに、もう誰もが気づいている。

実際、すでにタイヤには充分熱が入っ

FORMULA 4 WEST SERIES R1 REPORT 東日本に続き連覇した牧野任祐を筆頭にミストKK-ZSが台頭 猛威をふるう“アルミ”勢

スターティンググリッドの雰囲気は東日本の開幕戦と違ったのはアルミクラス車両が出走台数の大半を占めたからだろう。さらにHバタートランスミッションのA2クラス勢も西日本では奮闘している

Text: はた☆なおゆき (Naoyuki Hata)
Photo: 米重有三 (Yuzou Yoneshige)

